

1/13毎日

脳卒中受け入れ2割減

新型コロナウイルス感染症の影響で、約2割の医療機関が脳卒中の救急患者を受け入れられないなど、診療体制を縮小していいたとの調査結果を日本脳卒中学会がまとめた。コロナ患者に病床を使っていることが主な理由。脳卒中は冬に増加する傾向があり、同学会は脳卒中など命にかかる病での救急医療を守

るためにも、感染拡大を防ぐ重要性を訴えている。

調査対象は同学会が脳卒中患者を診療する体制を整えていたとの調査結果を日本脳卒中学会がまとめた。コロナ患者に病床を使っていることが主な理由。脳卒中は冬に増加する傾向があり、同学会は脳卒中など命にかかる病での救急医療を守

ち救急受け入れを完全に停止している医療機関も13カ所(2%)あった。大阪、兵庫、奈良など近畿で受け入れ制限をしている医療機関が多かったという。

制限の主な理由は、▽コロナ患者をICU(集中治療室)などで受け入れているため病床に空きがない▽医療従事者にコロナ感染者や濃厚接触者が出て就業できなくなった▽診療スペースの消費が増えた――などであるなど「診療制限を

調査は昨年12月14日時点。新

型コロナの感染はその後も拡大しており、診療体制を縮小する医療機関は更に増えている可能性がある。同学会理事の平野照之・杏林大医学部教授は「調査時点よりも救急体制は逼迫している」とみられる。これ以上感染が拡大すると、救急医療が崩壊し、救えるはずの命が救えなくなる恐れがある。日々の生活での手洗いなど感染予防策を徹底してほしい」と話している。

【熊谷豪】